

日本人の美意識

—それはなぜ「地味」と「派手」の両極に広がるのか—

古来、日本人は身分のへだてなく芸術に親しんできました。伝統に培われてきた日本人の美意識は現代にも生き、海外にもますます大きな影響を与えています。ところで、日本の文化や芸術には、「わび・さび」という言葉に象徴されるような質素で地味なイメージがある一方で、歌舞伎や錦絵や城郭のような派手で豪華な側面もあります。日本人の美意識はなぜこのような両極端に広がっているのでしょうか。諸外国の文化・芸術とも比較しながら、みなさんといっしょに、日本美の両極性の秘密に迫っていきたいと考えています。



講師

徳島文理大学文学部教授 立山 善康 氏

経歴：一九五三年熊本県生まれ。同志社大学文学部卒業。同大学院前期課程修了、後期課程単位取得満期退学。文学修士。京都造形芸術短期大学、京都造形芸術大学を経て、二〇〇二年四月より現職。専門分野は、哲学・倫理学・教育。
現在、ジョン・デューイの教育・社会・芸術思想やケアの倫理に関して研究。著書は、「ケアリングの現在―倫理・教育・看護・福祉の境界を越えて―」（中野啓明、伊藤博美、立山善康編著、晃洋書房）、「現代哲学の真理論：ポスト形而上学時代の真理問題」（監修：吉田謙一、編著：加賀裕郎、隈元泰弘、立山善康、世界思想社）、「日本のデューイ研究と21世紀の課題」（世界思想社）、「人間の尊厳と自立／社会の理解（介護福祉士養成テキスト第1巻）」（共著、法律文化社）等。

入場無料
事前申込み
不要

日時

令和元年 10月26日(土)
10:00~12:00 (開場9:30)

場所

徳島文理大学香川キャンパス
リサーチアンドメディアライブラリー
3階AVホール

主催

徳島文理大学比較文化研究所
香川県教育委員会
さぬき市教育委員会
大学コンソーシアム香川

お問合せ先：〒769-2193 さぬき市志度1314-1 徳島文理大学香川キャンパス
TEL 087-899-7100 (代表)